



学びの場から居場所へと

図書館分館長 高橋 富久

全国学生連盟の調査によると大学生の約53%が1日当たりの読書時間が「ゼロ」という回答をしています。今の学生の極端な読書離れと同様に、大学図書館の学生利用率も年々減少傾向にあります。情報化社会の発展に伴い、わざわざ図書館を利用しなくても、いつでも、どこでも、いくらでも個人のデバイスで、必要な情報の検索が可能になったことが大きな要因にあげられます。「いかに学生を図書館に引寄せるか」、本学図書館業務研修会でもこの問題が大きく取り上げられ議論されました。「少しでも図書館に興味を持って貰いたい」、そう云う理由から、これまでの硬いイメージからは到底考えられない、学びの場から学生が集う「居場所」として大きく風変わりした大学図書館もあります。本学でも定期的にかフェや映画鑑賞会を実施するなど、学生の「居場所」として図書館を広く開放している学部も見受けられます。本学部学生の図書館の利用率は決して高くありません。是非とも「居場所」としての図書館へ足を運んでみて下さい。豊富な医学・歯学の専門書の他に、最近話題の新刊も多数揃えています。また、少人数性のプチ講習会では学修に必要な図書や資料の検索方法の説明も随時実施しています。本学部図書館が皆さんの新たな知識の創成と発展の場として有効利用されることを願っています。

(教授 解剖学第I講座)

大学院へのすすめ



研究担当 佐藤 秀一

昨今、医学部における大学院進学者の減少が問題になっているようです。これはすぐに使える臨床医を育てることへの要望が高まり、国策として研修医制

度が必修化され、診療科の専門性が重視されるようになった結果、大学院の4年間、臨床の現場から離れることに対して躊躇する研修医が増えたことによるものと考えられます。歯学部・医学部において大学院へ進学する学生の目的は「博士号」を取得することだと思います。それでは博士号を取得するのは何のためなのでしょう。その一つは日本の医療制度に原因があるといわれています。明治時代、日本はドイツから医学を学び、医療制度も参考にしました。ドイツでは病院長などの役職に就くための条件として学位（博士号）が必要だったようです。このような制度は現在ではだいぶ少なくなっているようです。

本学部の大学院進学者数はこの10年間、毎年30～40名前後で推移し、充足率を十分満たしています。しかし、歯学部においても、1年間の臨床研修が必修化され、さらに、診療科の専門制が求められており、多くの学会で専門医・認定医制度が発足されています。従って今後、医学部と同じように大学院離れが進んでいくことが考えられます。

それでは、大学院に進む目的はただ博士号を取るためだけでしょうか？大学院で研究する意義は、日々の臨床で疑問に感じていることや臨床で行っていることが本当に正しいかどうかを見極める機会となりうることではないでしょうか。日々診療を行っている、必ず疑問にぶつかることがあると思います。その疑問について、先人や先輩からの助言を聞いて、そのまま終わりにするのではなく、探究心を持って追求できるのは、そのことについて研究することです。そこが、臨床のおもしろさや醍醐味だと思います。臨床家は研究者でなければならないのです。ぜひ、大学院に入学して研究し、自身の臨床の疑問を少しでも解決していただきたいと思います。

来年度も多くの卒業生が本学部の大学院の門を叩いていただけることを期待しております。

(教授 歯科保存学第Ⅲ講座)

奨学金について



学生担当 植田 耕一郎

本稿では、学生課所管の奨学金についてご説明いたします。

「学業成績が優秀な学生」、「課外活動等に功績のある学生」、「経済的な支援が必要な学生」に対し

て日本大学、歯学部独自及び学外の奨学金財団による奨学金制度があります。これらには「給付型」と「貸与型」の2種類があります。

給付型奨学金には、①歯学部佐藤奨学金(第1種)：学業成績が優秀な学部生(年額20万円5名、年額10万円20名) ②歯学部佐藤奨学金(第2種)：課外活動等に顕著な功績のある学部生(年額10万円5名) ③歯学部佐藤奨学金(第3種)：海外で開催される学会で研究発表をする大学院生(年額上限50万円7名) ④歯学部同窓会奨学金：課外活動に顕著な成果を収め学部の発展に貢献した学部生(年額10万円3名)及び歯学部学生への学習指導に貢献した大学院生(年額5万円4名) ⑤日本大学古田奨学金：学業成績が優秀で人物が優れている大学院生(年額20万円1名) ⑥日本大学ロバート・F・ケネディ奨学金：学業成績が優秀で人物が優れている大学院生(年額20万円1名) ⑦日本大学創立130周年記念奨学金：経済的理由により学費等の支弁が困難である学部生(年額30万円1名) ⑧日本大学事業部奨学金：経済的理由により学費等の支弁が困難であり、学業成績が優秀な学部生(年額24万円6名) ⑨森田奨学育英会奨学金：学部6年生と大学院4年生を対象に公募・選考(年額36万円各1名)等の奨学金があります(平成30年度実績)。

貸与型奨学金には、日本大学歯学部佐藤奨学金及び日本大学歯学部後援会奨学金の2種類の奨学金があり、いずれも人物が優れ、不測の事態により経済的理由等で学業継続が困難な学生に対して選考の上、授業料相当額を限度に日本大学歯学部が貸与します。

また、日本学生支援機構の奨学金は学部生には「第一種(無利子貸与、月額5万4千円、6万4千円)」、「第二種(有利子貸与、月額2万円から12万円までの1万円単位)」大学院生には「第一種(無利子貸与、月額8万円、12万2千円)」があり、多くの学生に貸与されていますが、将来の返還については、次の世代の奨学金となるため、厳格な仕組みになっています。

歯科医師国家試験の結果が注目されるころではありますが、主体はそこに至るまでの学生生活です。学生たちの喜びとやり甲斐が育まれるよう全学あげて支援いたします。(教授 摂食機能療法学講座)



2019年度 臨床研修歯科医 選考試験について



卒後教育担当 外木 守雄
(教授 口腔外科学講座)

総合診療科長 紙本 篤
(准教授 総合歯科学分野)

本学部付属歯科病院臨床研修
歯科医の選考試験は、2018年7

月7日に実施されました。採用定員140名のところ、学外からの志願者を含め、総数234名の受験者でした。この臨床研修制度は平成18年4月から必修化され、歯学部学生にとっては『就職試験』という位置付けになっております。本学部では、豊富な臨床経験をえられるという評判から、毎年全国各地の国公立大学より受験者がおります。選考方法は「書類審査」、「面接」及び「筆記試験」で構成されておりますが、本学部生に対しては、「面接」が免除されております。これは、在学中の学生生活における「生活態度」が該当する形で評価されます。「生活態度」は「授業態度」をはじめ「出欠席状況」・「部活動」・「学内外における学校行事への参加状況」・「表彰歴」などが総合的に判断されます。また、「書類審査」では5年次までの「学業成績」などを評価します。一方、他大学受験者に対しては、本学部生達と切磋琢磨して研修することを踏まえ、周囲に配慮しながら自己主張のできる人材を選考することを目的として、「面接」の方法をグループディスカッションにしております。

本学部での研修を希望する学生は、低学年より有意義で充実した学生生活を送り、「筆記試験」や「学業成績」に対応するうえで、より一層日々の自主的な学習に取り組んでいただきたいと思います。

今年度の当歯科病院にマッチングした方の出身は以下の通りです。

プログラム1 (募集定員 105名)	本学部95名(既卒者36名) 他大学10名
プログラム2 (募集定員 35名)	本学部33名(既卒者7名) 他大学2名

本歯科病院にマッチングした方はもちろんのこと、本学部の6年生全員が歯科医師国家試験に合格し、2019年度の歯科医師臨床研修を開始できることを祈念致しております。



解剖体追悼法要に参列して

福崎 愛

昨年10月27日土曜日、築地本願寺にて御献体として人体解剖学実習にご協力して下さった方々に対する追悼法要が行われました。解剖実習が始まって3回目が過ぎた頃でした。御遺族の方々の様子を実際に拝見し、御献体を解剖させていただくことの重大さを実感しました。自分達の気持ちの甘さを改め、より一層気を引き締めて人体解剖に取り組まなければならないと学生一同強く感じました。献体として自らの身体を見ず知らずの学生に提供することは容易な選択ではありません。歯科医学の進歩のため、また医療に従事する人材を育成するため、御献体として貢献していただいたご遺志に対し、心からの敬意と感謝を申し上げます。

私たち2年生は前期の約3ヶ月間、脈管、感覚器、神経、運動器、内臓の授業や実習を通して解剖学の基礎知識を学んできました。後期に入り、実際に御献体を解剖しながら今まで学んできたことをさらに五感で学び直し、知識を深めている最中です。解剖実習を通して気づいたことは、体の構造は奇跡としか言い表せないほど複雑で、その構造一つ一つはとても繊細であるということです。これは前期の授業だけで実感できることではありませんでした。知識でわかっていることと現実の差を埋め合わせることで、人体についてより深く理解できてきているのを感じています。また、私たちが生きていること、すなわち動くこと、感じること、考えることなどの全ては奇跡の連なりによる現象だと再確認できています。将来、知識や技術が豊富で、高い倫理観をもった医療人となるための貴重な体験として解剖実習一回一回を大切に心に刻み、この機会を与えて下さった全ての方々に対する感謝の気持ちを忘れずに今後も努力し続けようと思います。(第2学年)



ワールド・カフェについて

山崎 晴美

昨年10月14日(日)に「日本大学ワールド・カフェ(通称:N-MIX)」が行われました。これは、全学実施の初年次科目「自主創造の基礎2」の一環です。日本大学では、学部ごとにキャンパスが分かれており、各学部同士が交流することのできる数少ない授業です。

カフェでは、他学部の学生と交じって6名でグループを作って課題を行いました。初対面の相手ですが、課題を通じて、またお菓子をつまみながら、交流を深めました。その中で、歯学部の学生は、前期にグループ学修を多く体験しているためか、余裕を持って参加しているような印象を受けました。レポートの感想では、他学部の様子や、自分とは異なる生き方や価値観の学生がいることを発見し、歯学部の学生としての自分の在り方を改めて確認していたように思います。また、グループ作業の進行に関しても、リーダーシップの在り方についても学んでいました。さらに、メンバーとしての自分の責任と能力への気づきを述べている意見があったのはさすがです。これらの体験は、今後の学修への糧となっていくと思います。

今回、歯学部では、「自主創造の基礎2」担当の一般教育等、基礎系、臨床系の教員に協力いただき、計15名が経済学部会場の担当として参加しました。午前午後に分かれて、タスクフォース、カフェマスター、ファシリテーターを受け持ちました。他学部を訪れ、初対面の他学部の教員とチームを組み、他学部の学生と接する貴重な機会となりました。

ご協力いただいた先生方に感謝！

(准教授 医療人間科学分野)



ワールド・カフェに参加して

武井 祐太

日本大学全学共通初年次科目「自主創造の基礎2」の授業の一環として行われた「ワールド・カフェ」に参加した。これは全学部の学生が集まるイベントである。そこで行われたのは、「いいオトナ」についてのディスカッションであった。私のグループでは、「いいオトナ」とは「職がある」、「情熱を持っている」人だと定義づけられた。自分の考えとは違うが、納得させられる意見も多数出てきた。今回のワールド・カフェで得られたことは、同じ業界だけでなく他の業界の意見も取り入れることの重要性である。

実は、私はこのイベントに遅刻した。理由は寝坊である。10時開始の部に参加予定であったが、起きたのが11時30分。午後の部に参加することになり、会場の経済学部に着いて案内された教室には、たまたま歯学部の先生がいた。そうして私はこの文章を書くことを命じられたのであった。(第1学年)

櫻井 双葉

入学してから約半年が経過して、ようやく大学というものに慣れてはきたものの、それでも新鮮に感じるものや珍しいと思えることがある。そのような時期に行なわれた「ワールド・カフェ」という行事は、私にとって日本大学が育成する人材の幅広さを改めて実感させられるものでした。私は理工学部の会場に行きました。なにしろ初めて参加する行事でしたので、会場に向かう間、ちゃんと発言して有意義な時間に出来るのかと不安になったりしました。ですが、いざ教室に入ってみれば、リラックスした雰囲気的空間が広がっていて、私の心配も杞憂に終わりました。ワールド・カフェの特徴でもある自由な空間を生かして有意義な時間を過ごすことが出来ました。このような行事は他学部との交流を深める為にも、もっと盛んに行われるべきだと思いました。

(第1学年)



ミュンヘン報告

佐藤 貴子

ミュンヘンは、バイエルン州の州都で、ベルリン、ハンブルクに次いでドイツで3番目に大きな都市ですが、BMWやシーメンスの本社などがあり、秋にはオクトーバーフェストがあるなど、日本人のドイツに対するイメージに最も近い街と言えます。

私の滞在していたミュンヘン大学は、第二次世界大戦中、ドイツ国内における反ナチス運動の一つである白いバラの活動を行ったメンバーが在籍していた大学であり、ピラ配布した広場にはピラをモチーフにしたモニュメントが地面に埋め込まれているなど、とても歴史ある大学でした。

今回私は、口腔顎顔面外科 (Mund-, Kiefer-, und Gesichtschirurgie) の Prof.Dr.Dr.Michael Ehrenfeldのもとで、カスタムメイドのチタンミニプレートや、閉塞性睡眠時無呼吸症に対する研究を行うとともに、顎顔面外科手術に毎日アシスタントとして参加させていただきました。

ドイツの朝は早く、毎日7時半よりその日の手術および前日入院した患者に関するカンファレンスを行い、8時すぎには全身麻酔をかけられた患者が手術台で手術を待っている状態でした。次の患者との入れ替えもとてもスムーズに行われており、一日に多くの症例をこなしていました。また同時に多くの外来患者もこなしていましたが、これはすべてのスタッフが効率よく動ける環境・システムが整えられているおかげであると実感致しました。

この滞在中には外国人研修生のみならず、外国人の患者とも多く接する機会がありました。外国人の受け入れは、今後我々にも重要となってくる問題であるとあらためて考えさせられました。

最後に、私に今回の機会を与えてくださった、口腔外科学講座外木守雄教授、金子忠良教授、大木秀郎元教授、そして医局員の皆様に心より感謝致します。

(専任講師 口腔外科学講座)



コーネル大学留学記

小柳 裕子

平成28年4月より2年間、アメリカ・ニューヨークのコーネル大学医学部麻酔学講座に海外派遣研究員として滞在した。お世話になったHemmings研究室は吸入麻酔薬の作用機序解明のための基礎研究をかねてより行っており、静脈麻酔薬のシナプス伝達に対する作用の検討を自分の研究課題として行っていた私にとって、作用ターゲットがより多岐にわたる吸入麻酔薬の研究を行うのは、見識を高め今後の研究テーマを広げるのに絶好の機会であった。

ボスのHugh C. Hemmings, Jr.先生はラボの主宰者であるだけでなく、麻酔学講座のチェアマンとして臨床現場でも活躍していた。多忙にもかかわらずどこか余裕があり、声を荒げたり不機嫌そうな場面は2年間で一度も見たことがない。決断が早く、些細なことでもメールで相談すればすぐ返事が返ってくるのが印象的であった。10人に満たない小規模なラボであったが、メンバーはニューヨークらしく世界中から集まっており、多人種・多宗教はごく当たり前の事という雰囲気であった。1つの機器を複数人で共有していたが、必要に応じてお互い譲り合って使用しており、大きなトラブルや不満は感じなかった。隔週でラボミーティングがあり、そこで展開されていた研究を進めるうえでのディスカッションや問題解決の方策はじつに理論的で、是非とも今後の参考にしたいと感じた。

2年間もの留学を快諾して頂いた大井教授をはじめとする歯科麻酔学講座のメンバー、留学に際して困った時にサポートして頂いた小林教授をはじめとする薬理学講座のメンバーにはこの場を借りて感謝したい。留学で得られた経験を今後、業務や後輩達に還元できれば本望である。

(助教 歯科麻酔学講座)



平成30年度 医療安全研修会開催の報告

医療安全管理委員会委員長 飯沼 利光

去る11月6日に、平成30年度第1回医療安全研修会が院内感染予防研修会と併催で、本館百周年記念講堂にて開催されました。今回は435名と、昨年を80名も上回る教職員をはじめ、病院スタッフの多くが参加しました。この医療安全研修会は、日本大学歯学部付属歯科病院医療安全管理指針に毎年2回実施することが明記されているものです。しかし参加者の様子からは、心から本歯科病院を良くするためにこれから何に注意し、そして何をすべきかをお互い理解し合おうとの気概が強く感じ取れました。そもそも医療安全とは、安全で安心な医療を常に提供できる医療機関を目指すための大切な活動です。しかもこれは、患者さんを守るだけでなく医療従事者やスタッフ、そしてスチューデントドクターを守るための重要な活動でもあります。今回のテーマは「最近のヒヤリ・ハット事案の傾向と対策、新病院での確認事項について」で、重大な事故にはならなかったものの、人間なら誰でも起こしがちな「ヒヤリ・ハット」事例を提示し、本来医療行為ではあってはならない、このヒューマンエラーをいかに防止するかについて、データを基に検証しました。とくに、新病院へ移転したことにより、病院内での様々な環境には変化が生じているかもしれません。しかし、それによる事故は決して許されません。「ハインリッヒの法則」によると、1つの重大事故の背後には29の軽微な事故があり、その背景には300のヒヤリ・ハットが存在するそうです。ですから、どんな些細なことにも注意を払い、大事に至らないために各人が本歯科病院スタッフとして持つ責任の重さや、個人の日々の努力が全体に大きな成果をもたらすことを本会にて再認識をしました。

(教授 歯科補綴学第I講座)



随 想

日本大学歯学部の新旧を思う

日本大学歯学部同窓会会長 小幡 純



日本大学は今年130周年を迎えます。また、日本大学歯学部は100周年を迎えており、歯学部同窓会ももうすぐ100周年を迎えます。私は日本大学の約半分を生き、歯学部、歯学部同窓会においては約半分の期間関わりを持ってきました。

今はどのように言うかは分かりませんが私が学生だった頃は1・2年生を進1・進2、3・4・5年生を学1・学2・学3、6年生を院内生と呼んでいました。

入学時、歯学部には3つの校舎がありました。1号館は大学院校舎と呼ばれ、現在とあまり変わらぬ様子でした。2号館は歯学部100周年記念のために建て替えるので既に取り壊しが始まっていますが、数ヶ月前までは歯科病院として機能していました。以前は病院校舎と呼ばれ歯科病院があり、学1から院内生までの教室もありました。6階にはパーラーがあり、院内生と先生方の昼食はそこで取っていることが多く、医局に残ってから重宝しました。3号館は私が卒業後現在の物に建て替えられましたが以前は進学校舎と言いそこでは進1・進2の教室、各クラブの部室や練習場、武道系の道場、地下には学食等がありました。室内競技のクラブは毎日練習をし、雨の日はこの校舎の廊下や階段を使って屋外競技の運動部が筋トレ等をしていました。最もこの校舎が学生時代の思い出の場所でした。この建物は以前の歯科病院で各所に病院の面影がありました。現4号館は私が学生だった頃は無く喫茶店と歯科材料店がありました。ここも学生時代は良く通ったところです。

日大病院の跡地に100周年記念事業として歯科病院が移設され2号館の跡地にはこの歯科病院に増設という形で一体化した本館ができあがります。そして1号館は取り壊されます。

もうすぐ私が歯学部に入学時の建物は全て無くなることになり、新しくなった所を見ることができません。歯学部の新旧を見ることのできる事に感謝したいと思っています。

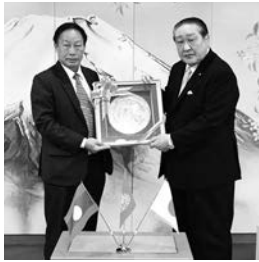
ラオス・ヘルスサイエンス大学 学長の歯学部訪問

歯学部長 本田 和也

平成30年9月17日に、ラオス人民民主共和国(以下、ラオス)のヘルスサイエンス大学(University of Health Sciences)から Phouthone Vangkonevilay 学長ら6名の教員が本学部を訪問されました。翌18日には、日本大学本部への表敬訪問が行われ、田中英壽理事長と大塚吉兵衛学長に日本大学からのこれまでの教育・研究支援に対し感謝の言葉を述べられました。

本学部と同大学との学術交流は10年以上に及んでいます。平成19年2月に大塚吉兵衛歯学部長(当時)がラオスの同大学を訪問し学術交流の覚書を結ばれ、同年4月に Som Ock Kingsada 学長が本学部を訪問されました。当時、同大学では教員養成や教育水準向上など教育制度の改善が求められていました。

本学部の同大学への教育支援活動は、平成19年度に文部科学省国際協力イニシアティブ教育協力拠点形成事業「発展途上国の地域ニーズに対応した口腔保健システムの構築のための教育支援」としての採択を契機に開始されました。



本学部と同大学間では、教員の相互訪問・研修活動、医療技術移転、教材開発などを経て口腔保健医療分野の修士課程の設置に至りました。また研究分野では、日本大学から平成24年度学長特別研究、平成30年度理事長特別研究に採択され、遠隔医療の共同研究が実施されています。

本学部歯科放射線学講座により、臨床面の技術支援として、同大学歯学部でデジタルパノラマ装置や歯科用CT装置の設置など同国の歯科放射線学の診断学や歯科治療技術の向上に資する医療環境の整備が図られて来ました。

今後も本学部では、学術交流の側面から日本とラオス間の友好交流に寄与していきます。

(教授 歯科放射線学講座)



ナナメの会について

日本大学歯学部同窓会

正式名称は「日本大学歯学部同窓会クラス、クラブOB・OG連絡会」です。名称が長いので通称「ナナメの会」になります。

グラフでX軸(水平軸)はクラスの友人、Y軸(垂直軸)はクラブの先輩後輩と見たとき、学年の違う友人や旧知のお世話になった先生との関係をナナメの関係とみなして「ナナメの会」としました。

クラスの友人はクラス会で、クラブの先輩後輩はクラブのOB会で会えますが、学年の違う友人や学生時代お世話になったインストラクターの先生とは卒業すると会う機会が少ないと思います。全同窓生に案内を出しているのは新年会、総会そして佐藤会ですが、いずれの会も若い同窓生の出席が少ないという現状があります。2013年に小幡先生が同窓会会長になった際、若い同窓生に同窓会を理解して頂きたい、また懇親を深めてほしいという思いから、同年11月に第1回「ナナメの会」を発会しました。その後、第2回より毎年7月第1土曜日に開催することになりました。また、若い同窓生が出席しやすいように、一昨年から卒業10年以内の先生は、一般会員会費の半額の5,000円としました。

毎回約200名の出席があり、大きな声での歓談や笑い声が絶えない会で、奇術部の手品などのアトラクションや抽選会も行われています。

第7回「ナナメの会」は、2019年7月6日(土曜日)夕方より、ホテルグランドパレスで開催致します。勿論、学生時代のクラブ所属の有無に関わりなく出席頂けます。特に若い同窓生に、より同窓の絆・親睦を深めてほしいと希望しています。是非、多くの先生方の出席をお待ちしています。今後とも同窓会の発展にご理解ご協力下さいますようお願い申し上げます。



桜歯祭を終えて



桜歯祭実行委員長 桐戸 美佳

“(Re)newal”のテーマのもと行われた今年度の桜歯祭も無事終了いたしました。日本大学歯学部附属歯科病院が“リニューアル”して間もなくの開催という事で、準備段階から例年と異なるが多かったので、新しいことに数多く挑戦させていただいた桜歯祭であったと感じております。先生方ならびに職員の方々のご指導、昨年度までの伝統を作ってくれた先輩方、桜歯祭を盛り上げてくれた学生、来場して下さったお客様、桜歯祭実行委員の同輩や後輩、桜歯祭に携わって下さった全ての方々の協力あってこそ、新しい環境下において無事桜歯祭を終えることができました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。(第4学年)

●.....桜歯祭副実行委員長 尾崎 恵悟

節目となった今年の桜歯祭。幹部として運営に関わり、準備から協力して下さった学生や教職員の皆様の支えがどれほど大きいかを改めて痛感しました。ご来場いただいた方々や学生が今年度以上により楽しむことができる桜歯祭をどう作り上げていくか、ここから新たに考えていきたいと思っております。(第3学年)

●.....会計 大江 留奈

本年度も無事桜歯祭を終えることができました。ご協力、ご尽力いただいた教職員、同窓会の皆様へ感謝御礼申し上げます。新病院となり、日本大学歯学部として記念すべき年に幹部として携われたことを光栄に思います。新たな環境で、不慣れな点多々ありましたが、良い経験になりました。(第4学年)

●.....会計補佐 高杉 玲美

今回幹部として会計の仕事を経験したことで、自分の視野が広がったように思います。桜歯祭は学生が一から作り上げ、先生方や事務の方からの多くの支援があってこそ成り立つものだと実感しました。来年度は私たちが先輩たちの築き上げた伝統を引き継ぎ、盛り上げていきたいと思っております。(第3学年)

●.....学校内企画補佐 相川 慶郎

今年度の桜歯祭の学校内企画補佐を務めさせていただきました。2日間とも快晴だったため、縁日、フリマ共に多くの学生やお客さんで大繁盛でした。縁日での新企画で、小さなお子様まで楽しんでいただけたかと思っております。来年度も多くのお客さんを笑顔にするため、最高のものを提供できるよう全力を尽くさせていただきます。(第3学年)

●.....大講堂企画補佐 志岐 日向子

今年度の桜歯祭では主に大講堂企画の運営に携わりました。新しい環境での開催の中、大講堂企画ではカラオケ大会など他学年との繋がりが見られ、例年の桜歯祭らしさを感じる事が出来ました。来年度も桜歯祭らしさを残しつつ、よりよいものを作り上げたいと思っております。(第3学年)



NU祭を終えて

実行委員長 松村 達也



本学部のNU祭は例年同様「いちにち歯医者さん」を開催しました。例年と異なり新病院での開催でしたが、学内外問わず多くの方に来場していただき大盛況となりました。歯科治療に使用する器材や材料を用いた企画に加え、本年は新企画として来場者の方々が気軽に参加できるクイズ形式の企画や歯科用3Dプリンターを使用した展示ブースなどを設けました。来場者の方々には普段触れることのない歯科の世界をより一層身近に感じていただく良い機会になったと思っております。今年もNU祭の開催にあたりご指導、ご協力いただいた教員の皆様をはじめ事務の方々、諸先輩方、実行委員のみんなに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。(第5学年)

駿技祭

実行委員長 市毛 杏奈



待ちに待った駿技祭もついに終わりをむかえました。

今年度の駿技祭は全学年が一丸となって頑張りました。

例年同様アクセサリーやマグネット、今年新たに製作したパーカーやミニチュア義歯など、たくさんの方々に手に取って

ただけました。

ご来場くださった皆様には深く感謝申し上げます。

今年度中心となって企画、制作に携わった2年生はこの経験を活かし、より一層歯科技工技術を磨いていきたいと思えます。来年度は現1年生が中心となるので、今回の経験を含め楽しく頑張してほしいです。

駿技祭の運営にあたり、学年学部を越えて様々な方と交流し、とても貴重な経験ができました。ご協力いただきました諸先生方、その他関係者の皆様に心より御礼申し上げます。(技工専門学校第2学年)

翔衛祭

実行委員長 古谷 あさか



翔衛祭では例年と同様に食品販売と口腔衛生の2つの企画を行いました。食品販売は綿あめで、女の子だけの衛生専門学校なので見た目を重視してかわいらしく仕上げました。口腔衛生は歯磨きチェッ

クと歯の磨き方のアドバイスをを行い、子供から大人まで様々な方にご来場いただき、私達衛生専門学校生にとって大変良い経験となりました。1年生と2年生で協力をして作り上げた翔衛祭ですが、今回の反省点を生かし来年度はさらにより良いものとなるようにしっかり後輩に引き継いでいきたいと思えます。

最後になりますが、翔衛祭を運営するにあたりご協力頂きました先生方、桜歯祭委員、NU祭委員、衛校生、全ての方に感謝申し上げます。

(衛生専門学校第2学年)

医療情報コーナー

最終回「国民医療費の推移」

毎年約1兆円増え続ける国民医療費に歯止めはかかるのだろうか

尾崎 哲則



平成28年度の国民医療費は42兆1,381億円、前年度の42兆3,644億円に比べ2,263億円、0.5%の減少となっている。平成14年度以降、14年ぶりに0.5%減少した。人口一人当たりの国民医療費は33万2,000円、前年度

の33万3,300円に比べ1,300円、0.4%の減少となっている。ようやくこれで、増え続けてきた医療費が頭打ちとなるのかというと、どうもそうではないようだ。

さらに、診療種類別にみると、医科診療医療費は30兆1,853億円(構成割合71.6%)、そのうち入院医療費は15兆7,933億円(同37.5%)、入院外医療費は14兆3,920億円(同34.2%)となっている。また、歯科診療医療費は2兆8,574億円(同6.8%)、薬局調剤医療費は7兆5,867億円(同18.0%)、入院時食事・生活医療費は7,917億円(同1.9%)、訪問看護医療費は1,742億円(同0.4%)、療養費等は5,427億円(同1.3%)となっている。さらに、対前年度増減率をみると、医科診療医療費は0.5%の増加、歯科診療医療費は1.0%の増加、薬局調剤医療費(以下、調剤費)は5.0%の減少となっている。

そこで、減少した調剤費を詳しくみてみると、平成27年度に9.4%も増えたのが5.0%減った。これは、平成27年度にC型肝炎治療薬の「ソバルディ」と「ハーボニー」が相次いで公的保険の対象になり、1錠約6万円から8万円と高額だった。当初は、販売量が大きくないとして薬価が高価格に設定され、大幅に調剤費が増加した。このことが社会的な問題となったこともあり、年間の販売額が極めて大きい薬は2年に1度の薬価改定を待たずに価格を引き下げる異例のルールを設けた。この結果、これらの薬の価格が3割ほど下がり、調剤費の減少につながったといわれている。要するに前年の伸びが大きかった反動で、これで減少傾向に転じるわけではない、ということになる。

歯科医療費はこの数年着実に伸びている。これは、薬価の引き下げを財源として、歯科の技術料等を上げてきた結果である。内閣府の骨太改革に、歯科の重要性が上げられているものの、国全体としては、医療費の適正化は重要な課題であるので、歯科の中でもスクラップアンドビルトを考えていくことは必要であろう。(教授 医療人間科学分野)

平成30年度 歯学部第2回公開講座

中島 一郎

去る11月10日、歯科補綴学第Ⅲ講座の萩原芳幸准教授を講師に、「本当はどうか？インプラント治療—インプラントに関してよくあるご質問、本音でお答えします—」をテーマとした平成30年度歯学部第2回公開講座が第3講堂にて開催されました。

当日は、参加者数が99名と講堂内は大盛況でした。

今回の講演では、近年になり歯科臨床で需要の高まりつつあるインプラント治療について、基礎から臨床、保健医療までの様々な観点から、簡潔にまとめたセミナー形式で実施されました。

歯を失った場合の治療法としては、従来では取り外しの入れ歯(部分床義歯や総義歯)やブリッジが選択されてきました。これらの治療方法は現在でも一般的な歯科治療の根幹をなしていますが、患者さんの満足いく治療効果を得るためには高度な技術が要求されることがあります。そのような際にインプラント治療が選択されており、その理由(根拠)について事例やデータを挙げて解りやすく解説されました。

さらにインプラント治療に際しては、歯科医師との十分な話し合いが必要であることも説明されました。

現在の高齢社会における全身的健康を考えた際には、インプラント治療で



は、インプラント治療で噛む機能を回復させた時点がスタートであり、失った歯や機能を回復して「食事や会話を楽しみたい」、「自信を取り戻したい」、最終的には「生活の質を高めたい」という生活の質の向上を重視した治療方法であることが参加された方々に伝わったかと思われます。健康寿命を延伸することが歯科治療の本来の目的であること等を専門医の視点から情報提供された講演会でした。本年度最後の歯学部の公開講座でしたが、関係各位のご尽力に、心から感謝申し上げます。 (教授 医療人間科学分野)

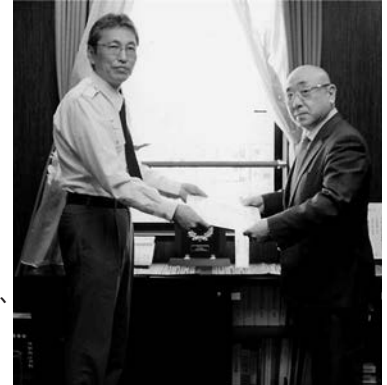
は、インプラント治療で噛む機能を回復させた時点がスタートであり、失った歯や機能を回復して「食事や会話を楽しみたい」、「自信を取り戻したい」、最終的には「生活の質を高めたい」という生活の質の向上を重視した治療方法であることが参加された方々に伝わったかと思われます。健康寿命を延伸することが歯科治療の本来の目的であること等を専門医の視点から情報提供された講演会でした。本年度最後の歯学部の公開講座でしたが、関係各位のご尽力に、心から感謝申し上げます。 (教授 医療人間科学分野)

父母懇談会

昨年10月6日(土)に歯学部父母懇談会が開催されました。昨年度に引き続き、桜歯祭・駿技祭・翔衛祭・NU祭・御茶ノ水アートピクニックと同日に開催され、多くのご父母が参加されました。全学年で学年主任・クラス担任ほか多数の先生方により、個人面談が行われ、子女の学校生活や出席状況等の話がされました。終了後は、銀座アスターにて全学年合同の懇親会が開催されました。

消防表彰

新校舎建設に伴い、解体される2号館を消防隊員の建物破壊突入訓練所として提供したことに對し、平成30年10月29日、神田消防署長から感謝状を受領しました。また、平成30年11月9日、全電通労働会館にて行われた「消防の集い」において、火災予防及び人命安全対策に貢献したとして、本学部が表彰されました。なお、秋の火災予防運動における表彰は2年連続となります。本学部はこれを励みに、より一層、防火・防災活動に邁進してまいります。



進学相談会

昨年10月6日(土)に附属歯科技工専門学校・衛生専門学校、10月13日(土)に歯学部の進学相談会が開催されました。当日は、適性試験・入試科目・小論文等、入試に関する質問が多くみられました。平成30年度進学相談会の総来場者数は810名でした。



佐藤会

昨年11月18日(日)に、本学部創立者の佐藤運雄先生のご遺徳を称えて毎年開催している佐藤会が行われた。当日は本学部ならびに同窓会より役教職員が佐藤先生の菩提寺の青松寺へ墓参し、13時から式典を歯学部創設百周年記念講堂で挙行了。全国から同窓会員と関係者一同が参集し、名誉会員記贈呈、叙勲者表彰、佐藤賞授与が行われた。本年度の佐藤賞は学内から高見澤俊樹先生(歯科保存学第Ⅰ講座准教授 学43)「セルフエッチングアドヒーズの接着耐久性に関する研究」、学外から青島徹児先生(埼玉県開業 学43)「補綴および修復治療による口腔内に融けこむ審美歯科への探究」に授与された。

リーダーズキャンプ

クラブ協議会会長 稲永 翔伍



11月10日(土)に日本大学歯学部1号館4階にて、今年度のリーダーズキャンプが開催されました。クラブ協議会を中心として各クラブの代表者、歯学体評議委員、各実行委員長の参加のもと主将会議と報告会、懇親会を1日かけて行いました。

主将会議では新入生の勧誘活動や各クラブからの要望を中心として活発な質疑応答、協議を行うことができました。また、限られたスペースをどう共有

するかなど、各クラブがより良く部活動を行えるよう議論を交わしました。その中でも新入生の勧誘活動や勧誘方法については特に積極的な意見交換が行われました。その点については変更点も多いため今後とも議論を重ねたいと思います。主将会議、報告会後に行われた懇親会では多くの先生方や各クラブ間の先輩、後輩との親睦を深めることができる場となり、非常に有意義な会となりました。

それぞれが異なる場所で異なる活動をしているクラブが一堂に会して意見を交わし、交流できる機会はとても貴重なものであります。クラブ協議会会長として来年度以降もより充実した魅力的な会にできるよう精一杯努めさせていただきます。

最後になりますが、リーダーズキャンプの開催にあたり、お世話になりました学生生活委員の先生方、学生課の皆様、ご指導ご協力ありがとうございました。(第4学年)

クラブ
だより

日本拳法部

主将 石川 征尚

今年度のデンタルでは主管校を務めさせていただきました。主管校での団体戦、個人戦、新人戦、女子戦の4冠優勝を目標に練習に励んできましたが、結果は団体戦3位、個人戦優勝、女子戦準優勝という結果に終わりました。次こそは4冠優勝できるように部員一同気を引き締めて練習していきたいと思えます。お忙しい中、大会に関わっていただいたOB・OGの先輩方ありがとうございました。今後とも指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

(第5学年)

全日本歯科学学生総合体育大会 日本拳



第50回歯学体解団式

歯学体正評議委員 仮谷 仁志

歯学体正評議委員を務めさせていただいた第50回歯学体は、総合第5位という結果で終わりました。迎えた歯学体解団式では同窓会、後援会、多くの先生方のサポートでこの成績を果たすことができた、改めて実感しました。来年度は、各クラブが団結して歯学体総合順位を一つでも上げることができるように頑張ります。最後になりますが、正評議委員に対しサポートしてくださりました多くの関係者の皆様にはこの場を借りて深く御礼申し上げます。(第5学年)



オピニオン

○「あ、ルーラ使いたい！」と最近よく思う。「ルーラ」とはゲームの中で瞬間移動をするための呪文だ。私の家は学校からかなり遠く、不便だと日々感じている。加えて、校舎建て替えの為、授業間の移動距離も長くなり、ルーラが使えたら生活は一新するだろう。私はいつか架空世界の呪文や魔法が実現すればいいなと思う。

(1年 清原 佑梨乃)

○私の名字の「晝間」は珍しい。「晝」というのは「昼」の旧字体だ。名の由来は、徳川家康が敵に追われていた時に、船頭たちが暗闇の中、松明をたいて家康に川を渡らせた。そのお礼として、「晝間のように明るかった」と家康から姓を賜ったという。困った人を助けた先祖から受け継いだこの名に恥じぬような人に私もなりたい。

(1年 晝間 勇輝)

○私は学校生活の様々な場面でストレスが生じています。しかし、ストレスには2種類あり、学校生活での学習や活動で事前に準備をし課題に集中をする上での適度に感じるストレスと、単に混乱などにつながるストレスがあると思います。前者は必ずしも負の要因ではないので、今後の学校生活では前者を意識して過ごしていこうと考えています。

(2年 大瀧 康太)

○2年生になると、専門的で実践的な内容が多くなってきました。部活動においては役職をいただき、忙しくも充実した日々を過ごしています。これからも支えてくださる周りの方々への感謝の気持ちを忘れず、日々努力していきたいと思っています。

(2年 小見山 奏)

○最近、医療に従事する将来の自分の姿について考える。私の友人には、人の気持ちをきちんと考えて上手く付きあい、学修面では努力を継続させて乗り越えてゆく賢い者が多い。良くも悪くも正直者で単純な私は彼女達のようにはなれないが、机に向かうだけでなく、そんな生き様も勉強していきたい。

(3年 岸本 紫央里)

○冬は、日が沈むのが早く、1日1日が短く感じる。去年までと実習の数と内容の深さが異なる為、ついていくのに必死である。臨床的な内容が入り、歯科医師になるという自覚が出てきた。私は歯医者さんが怖いので歯が痛くても我慢する。しかしそんな私が将来なるのは歯科医師である。

(3年 比嘉 真実)

○3年の春に私は入院しました。1日点滴を打ち、寝るだけの毎日を過ごしていました。この時の唯一の楽しみが友達のお見舞いでした。たわいもない話

で盛り上がり友達が帰ってしまうのがおもしろいでした。この素敵な友達と共に勉強し吞んで語って学校生活を楽しんで過ごしていきたいです。

(4年 四本 翔)

○時の過ぎるのは早いもので、あっという間にCBTが間近にせまってきました。4年間で学んだ膨大な情報量を目の前にして、とても大変だと日々痛感させられます。しかし、臨床系の実習との両立をしつつ、最後まで諦めずに自分のペースで一日一日を精一杯努力して進めていきたいと思っています。

(4年 和田 彩花)

○天皇陛下の生前退位で平成が終わろうとしている。平成に生まれ、平成が終わる瞬間にも立ち会うのは感慨深く寂しい。そんな平成最後の年に完成した新病院。私たち5年生は旧病院と新病院双方で臨床実習ができる唯一の学年となった。伝統と伝統のつなぎ目で実習に臨めることを感謝し残りの学校生活を謳歌したい。

(5年 滝澤 慧大)

○気づけば5年生としての生活も半分以上を終え、クラブも引退し時の早さを実感します。クラブ活動から離れるのは寂しいですが、後輩たちが秋季リーグで優勝したという朗報を聞いて嬉しく思いました。また院内生活は体力勝負なので風邪や感染症にならないように身体に気をつけながら日々過ごしていきたいです。

(5年 高山 一希)

○4月に6年生となり、あっという間に半年以上が過ぎ、刻々と国家試験という勝負の時間が近づいてきています。国家試験に落ちたらどうしようなどと不安に押しつぶされそうになることもあります。アントニオ猪木さんの言葉に「(試合に) 出る前に負ける事考えるバカいるかよ」という名言があります。確かにその通りだと思います。前向きな気持ちで国家試験までの残された時間を大切に過ごそうと思います。

(6年 葛原 弘)

○6年生になって半年以上の月日が経ちました。勝負はここからですが、これまでのことを振り返ると、歯科の世界について何も知らなかった自分が6年生としていられるのも周りの友人や先生方の支えがあったからこそだと思います。楽しいときも辛いときもありましたが、今思えば良い思い出です。国家試験まであとわずかですが、残り少ない学生生活を謳歌し、春には学年全員で歯科医師として笑顔で会えるように残りの日々を大切に過ごしていきたいと思っています。

(6年 小野 慎之介)

本学部教員による著書

「若手歯科医師のための 海外留学指南」

口腔保健協会出版 北川 昇
萩原 芳幸 編

中島 一郎

海外留学での学びは、学問の探求だけでなく、国際社会の動向を肌で感じることで、新たな人生観を見出す絶好の機会です。ただ、大学生や若手教員に指針となる具体的な情報を提供する書籍はありませんでした。

本書では、複数の留学経験者の先生方がご自身の研修・研究体験を紹介され、留学の準備・手続きから、留学先での学び方、交流の在り方などが解りやすく記載されています。

歯科医療を担う若い先生方が積極的に海外で見聞を広げ、自己研鑽を積むためのガイドブックとして推薦いたします。(教授 医療人間科学分野)



U20陸上大会

入江 亮輔

私は、昨年10月に名古屋市で開催された「第34回U20日本陸上競技選手大会」800mにおいて、準優勝しました。優勝できなかったことは残念ですが、全国大会で2位をとれたことは嬉しいです。高校3年生のインターハイでは準決勝落ちと悔しい思いをしたので、そのリベンジが出来ました。私は歯学部の陸上競技部に所属していると共に、本部の陸上競技部にも所属しています。前期は歯学部での練習を週2日、本部での練習を週4日行いながら学校生活を送っていました。初めは学業の面についていけないか不安でしたが、歯学部陸上部の先輩方や同期のサポートにより、スムーズにテスト勉強を進めることができました。そのおかげで、しっかりと練習を積むことができ、今回の様な結果を残すことができました。今後も、文武両道を目指して学業と共に部活動に励んでいきたいと思っています。(第1学年)



■ 附属専門学校から

歯科技工専門学校

新校舎移設のⅠ期工事完了に伴い、1・2年生が使用する第5実習室も新しくなりました。Ⅱ期工事が完了するまでは移動距離が長く準備が大変なため、一部の実習のみでの使用となっていますが、真新しい施設に心を踊らせながら後期の実習に取り組んでいます。

先日開催された駿技祭では、歯科技工士を目指す学生ならではのアイデアに満ちた手作り雑貨を製作し、本年度も来場者の方々からご好評をいただくことができました。

3年生はいよいよ国家試験を迎えます。本年度も全員合格を目標に、学説および実技試験の対策に日々励んでいます。



歯科衛生専門学校

平成30年11月1日に日本大学歯学部百周年記念講堂において本田和也歯学部長をはじめとしてご来賓・ご父母の方々をお迎えし、日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校第60期生(2年生)の戴帽式が執り行われました。学生達が灯すキャンドルの灯りの中で歯科衛生士憲章を復唱し、厳粛な雰囲気の中で式典は終了しました。第60期生37名は国民の健康に寄与すべく、これからの約1年間の臨床実習に対する決意を新たにしました。1年生は相互実習が始まり、3年生は就職活動とともに国家試験全員合格を目指して忙しい毎日を送っています。



NewsPlus α

☆図書館開館時間の延長

昨年の11月5日(月)から本年2月1日(金)までの間、平日の開館時間が現行の21時から22時まで延長される。

☆第51回全日本歯科学生総合体育大会冬期部門結団式

昨年12月13日(木)18時から1号館大講堂において行われ、役教職員、クラブ顧問の参列の下、関係クラブ学生が総合優勝奪回へ向けて健闘を誓った。冬期部門は、12月28日(金)よりラグビーフットボール部門が開催され、その後アメリカンフットボール部門、スキー部門と順次開催される。

学 事

平成31年度入学試験

【一般入学試験(N方式第1期)〈日本大学が実施する入試〉】

- ◆募集人数 5名
 - ◆出願期間 平成31年1月5日(土)～1月24日(木)
 - ◆試験期日 平成31年2月1日(金)
 - ◆合格発表 平成31年2月9日(土)
 - ◆入学検定料 24,000円
 - ◆選考方法 ①数学「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B(確率分布と統計的な推測を除く)」②理科「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」のうちから1科目選択 ③外国語「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ」
- ※理科において、医学部を併願している場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。

【一般入学試験(A方式)〈歯学部が実施する入試〉】

- ◆募集人数 55名
 - ◆出願期間 平成31年1月5日(土)～1月25日(金)
 - ◆試験期日 平成31年2月3日(日)
 - ◆合格発表 平成31年2月9日(土)
 - ◆入学検定料 50,000円
 - ◆選考方法 ①数学「数学Ⅰ・数学Ⅱ」②理科「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」のうちから1科目選択 ③外国語「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ」④小論文(60分・600字以内)⑤面接
- ※理科の選択科目において、平均点に大きな差が生じた場合は、得点調整を行う場合がある。

【一般入学試験(C方式第1期)〈大学入試センター試験を利用する入試〉】

- ◆募集人数 10名
 - ◆出願期間 平成31年1月5日(土)～1月23日(水)
 - ◆試験期日 ◇大学入試センター試験
平成31年1月19・20日(土・日)
 - ◆合格発表 平成31年2月9日(土)
 - ◆入学検定料 24,000円
 - ◆選考方法
- ◇大学入試センター試験では、下記の教科・科目を受験すること。
①国語「近代以降の文章のみ利用」②理科「物理」「化学」「生物」のうちから1科目選択 ③外国語「英語」
- ※理科(基礎を付していない科目)において、2科目受験した場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。外国語「英語」において、リスニングの成績は利用しない。

【一般入学試験(C方式第2期)〈大学入試センター試験を利用する入試〉】

- ◆募集人数 3名
 - ◆出願期間 平成31年1月5日(土)～2月13日(水)
 - ◆試験期日 ◇大学入試センター試験
平成31年1月19・20日(土・日)
 - ◆合格発表 平成31年3月1日(金)
 - ◆入学検定料 24,000円
 - ◆選考方法
- ◇大学入試センター試験では、下記の教科・科目を受験すること。
①理科「物理」「化学」「生物」のうちから1科目選択②外国語「英語」
- ※理科(基礎を付していない科目)において、2科目受験した場合は、第1解答科目のみを合否判定に使用する。外国語「英語」において、リスニングの成績は利用しない。

平成31年度編入学試験結果

試験は昨年10月20日(土)に行われ、志願者7名、受験者7名、合格者0名でした。

平成31年度転部試験結果

試験は昨年10月20日(土)に行われ、志願者1名、受験者1名、合格者0名でした。

平成31年度外国人留学生入学試験結果

試験は昨年10月20日(土)に行われ、志願者5名、受験者5名、合格者1名でした。

平成31年度校友子女入学試験結果

試験は昨年11月17日(土)に行われ、志願者31名、受験者29名、合格者20名でした。

平成31年度推薦入学試験 (付属高等学校等基礎学力選抜)結果

試験は昨年11月17日(土)に行われ、志願者22名、受験者22名、合格者22名でした。

平成31年度推薦入学試験 (付属高等学校等国公立併願方式)結果

試験は該当者がいなかったため、実施しませんでした。

平成31年度一般推薦入学試験(公募制)結果

試験は昨年11月17日(土)に行われ、志願者16名、受験者16名、合格者13名でした。